商工会青年部活動報告

●デカンショ祭 青年部売店出店

今年も篠山市商工会青年部の恒例であります「デカンショ祭」における青年部売店を出店しました。

祭り当日は、日程に恵まれたこともあり、早い段階から賑わい始めて、飲み物や軽食を求めるお客様の多さに圧倒されながらも、各支部から選出された青年部員が、汗をかきながら懸命に対応し、大きなトラブルもなく無事おえることとなりました。

祭りの後の静けさのなか、「おつかれさまでした」と笑顔で声を掛け合い、合併後の恒例事業として回数を重ねるごとに深まっていく各支部間の連携と篠山市商工会青年部の可能性を感じることができた事業となりました。

〔松下卓好〕

●味まつり

篠山市商工会青年部は、女性部と協力し売店を出店しました。

青年部としては、女性部売店の手伝いと「まるいのベイビー」（黒豆入りカステラ）の販売をしました。

この「まるいのベイビー」は何ヶ月も前から打ち合わせをし、試作を繰り返してきました。

当日は天候もよく販売等もスムーズに行われ、お客様に材料の説明を行いながら、開店から祭りが終了するまでの間、絶え間なく続く列に圧倒されながらも、3日間を無事終える事ができました。

この3日間女性部と事業を通じて交流させて頂き、さらには青年部の親睦も深まる事ができました。

この篠山が「住みたいまち・魅力のあるまち」を目指してこれからも商工会青年部をPRしていきたいと思います。

〔小林 喬〕

●恋活しちゃう? in 丹波篠山 ～400年に一度の出会い～

平成21年9月20日　兵庫陶芸美術館において、篠山市商工会青年部は第1回目となる、築城四百年祭記念イベント『恋活しちゃう? in 丹波篠山～400年に一度の出会い～』と題した4支部全体事業を開催しました。

新体制が発足して間もなく、小田垣新部長の「それエエヤン」の一言から手探りで動き出したこの事業は、現在、丹波篠山が直面している、人口の減少・少子高齢化・商工・農業後継者不足といった問題の打開策として、参加者に丹波篠山の魅力を知ってもらい、出会いの場を提供することにより将来永住してもらおうという主旨のもと、商工会青年部が主催し企画・運営を行なった独自のイベント事業です。

秋空の下、男女合わせて167人の参加者を迎え、いろいろな催しを交えながら、青年部員が丹波篠山の広告塔となり、交流を深めました。

同事業の検討委員会では、女性を招いた会議を開催し女性目線を重視した企画を検討し、その内容も開催日が近づくにつれエンターテイメント性よりもシリアス性を重視していく方向になっていきました。

その結果11組のカップルが成立し、その中の一組は、御成婚の式場をおさえ、これからの人生を二人で歩んでいこうという報告を頂いております。お幸せになられることを祈念いたします。

このような最高の結果を生み出せたのも青年部員の若さと熱い情熱そして行動力が幸いしたのだと感じると同時に、篠山市商工会青年部の優れた組織力が垣間見られた事業でした。

〔小林信通〕

●ソフトボール大会

〈丹波地区〉

平成21年7月11日(土)篠山市営今田グラウンドにて、丹波篠山地区商工会青年部ソフトボール大会が開催されました。

篠山市から4チーム、丹波市から7チームの合計11チームが晴天の中で普段の仕事を忘れ、一生懸命にプレーしました。

真剣な中にも、好プレーによる感嘆の声、珍プレーによる笑いの声がグランド中に響き渡りました。

また、丹波市商工会青年部員との交流も深まり、充実した楽しい1日を過ごしました。

なお、篠山市商工会チームが優勝し、平成21年10月に三木市吉川町で開催される、県大会に出場することとなりました。

〈県大会〉

平成21年10月25日(日)三木市吉川町総合グラウンドにて、県商工会青年部ソフトボール大会が開催されました。

篠山市商工会青年部は丹波篠山地区を代表し出場しました。

当日は、県下各地区の代表等が出場し、合計10チームが参加しました。

第1回戦は猪名川町と対戦し13対5で大勝し、その勢いを持って第2回戦の加東市と対戦しましたが、残念ながら8対10で惜敗しました。

参加した部員は悔しがっていましたが、青年部内の仲間意識の向上にも繋がるとともに、県下の青年部員との交流も深まり、大変有意義な1日を過ごせました。

次年度は県大会優勝を目指して、頑張りたいと思います。

●研修会

平成21年11月6日(金)篠山商工会館にて㈱バリュー・クリエーション・サービスの佐藤真一氏を講師に招き「地域ブランドの確立～まち歩きの楽しさを深めよう～」をテーマに研修会を開催しました。

研修の内容は、地域活性化においては関係する人々が同じ方向と目標を持たねばならないことや、地域資源はどの地域にもあるが、概ね使いこなしていないので、今一度見直すことが必要であり、また、地域のイベントもただ単に継続を目的とするのではなく、時代のニーズにあったものへとシフトする必要がある等の講話があり、参加した約50名の部員は熱心に受講しました。

今回の研修会を開催したことにより、青年部活動を今以上に、有意義な活動につなげ、地域の発展に役立つよう、たゆまぬ努力が必要であると思いました。

〔大前裕樹〕

●主張発表大会

平成21年4月17日(金)に丹波市ポップアップホールにて丹波篠山地区商工会青年部主張発表大会が開催されました。

篠山市商工会青年部の代表として3名が「青年部活動に参加して」をテーマに日頃の青年部活動を通じて得た事例や、事業を通じて個々の熱い思い等を発表しました。

発表した方々は、緊張しながらも、熱い思いを伝えることができ、それぞれ満足感と誇らしげな表情でありました。

野村豪人

北山　濃

西村輝幸

支部活動報告

西紀支部 わいわいフェスティバル

◆わいわいフェスティバル　開催日/平成22年7月28日　場所/ハイマート佐仲

7月28日、ハイマート佐仲にて「わいわいフェスティバル」を開催しました。今年は市内の小学生130人が参加して、日ごろ経験できない職業体験をしました。

会場には、地元商工会員による工務店・食堂・建築などのほかに、市内各地から協力をいただき、丹波焼の陶芸や和菓子作りなど、10個の職業体験ブースを開きました。

和菓子のブースでは、大福堂の小林さんの指導の下、子ども達が和菓子職人を目指して、真剣なまなざしで、きれいな花のお菓子を作っていました。

前日からボランティアとして参加して頂いた西紀中学校と篠山産業高校の生徒のみなさまをはじめ、篠山チルドレンズミュージアムの方、そして地域の方々にご協力頂き、本当にありがとうございました。

〔田渕泰久〕

篠山支部 第57回デカンショ祭・第7回いのしし祭

◆デカンショ祭　開催日/平成21年8月15日・16日　場所/篠山城跡周辺
◆いのしし祭　開催日/平成22年1月30日　場所/篠山城跡周辺

8月15日・16日真夏の篠山城跡周辺にて第57回丹波篠山デカンショ祭を開催しました。

今年は篠山築城四百年という記念すべき年でもあり、三の丸広場に出現した巨大木造ヤグラを中心に恒例の競演会、Jr競演会、総踊りと2日間にわたり大変な盛り上がりでありました。

なかでも我々の思い出に残ったのは築城四百年祭特別企画の記念パレード＆ヤグラ演奏会です。小規模のパレードであったとはいえ、我々だけでなく大勢の出演者の方々や観客の心に残る素敵な企画となりました。

また、1月30日には同城跡周辺にて第7回いのしし祭を開催しました。昨年とは一転して大変な好天に恵まれ、予想以上の人手で大盛況となりました。しし券を握って長蛇の列に並ぶお客様を見たときの感謝と感激が今も我々の胸に残っております。

「丹波一ガー」、「いのしし丸焼き」をはじめとした青年部売店だけでなく各出店者ブースからも完売が出るほどのにぎわいでありました。

食会場以外でも、メインの「ドドドいのしし猛レース」やイベント企画の「丹波篠山冬の大抽選会」と、我々としては大変忙しい一日でありましたが、会場を包む歓声の中で今年も無事にこの祭りを開催、運営できたことに感謝するとともにご協力頂いた関係者の皆さまに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

〔大久保朝之〕

今田支部 陶と灯りの夏祭りと第32回陶器祭り

◆陶と灯りの夏祭り　開催日/平成21年8月23日　場所/兵庫陶芸美術館
◆陶器まつり　開催日/平成21年10月17日・18日　場所/今田公民館前

平成21年8月23日に行われた「陶と灯りの夏祭り」には、約500人もの来場者があり大変盛況でありました。

内容としては、子供たちに西紀の「わいわいフェスティバル」で作ってもらった灯籠96個を置いて飾りました。

あまご、いわな等の魚のつかみ取りをして塩焼きにしたり、焼きそば、紙芝居などを催し楽しんでいただきました。

また、今田夢花火による花火大会もあり充実した内容となりました。

10月17・18日に行われた「第32回陶器祭り」には、模擬店を出店し恒例の焼餅、つきたての白餅の販売に加え、今年はぜんざい、黒豆入りぜんざいも販売し完売近くの売れ行きでした。

なかには毎年買ってくださるお客様もあり嬉しく思いました。

〔小林康宏〕

丹南支部 大国寺茶まつり『ナン茶ってカレー』販売 第2回真冬の花火大会 開催

◆大国寺茶まつり　開催日/平成21年6月6日・7日　場所/大国寺周辺
◆真冬の花火大会　開催日/平成21年11月14日　場所/味間奥

丹南支部では本年度、第29回大国寺と丹波茶まつりでの『ナン茶ってカレー』販売と、『第2回真冬の花火大会』の事業開催に取り組みました。

味間奥で開催された第29回大国寺と丹波茶まつりでは、まつりをより一層盛り上げていこうと、お茶にちなんだ、特製の『ナン茶ってカレー』を販売しました。仕入れによる販売価格設定や販売方法、カレーとナンの分量や容器の大きさ、そして何よりも味にこだわり、各部員が意見を出し合い試行錯誤を重ねての販売となりました。販売が好調だったことよりも、みんなの気持ちを商品にして「かたち」にできたことが何よりも良かったと感じる事業となりました。

また11月には、『第2回真冬の花火大会』を開催しました。昨年度に続いての開催で反省点を踏まえての取り組みではありましたが、新たな企画やより良い大会にしたいという各部員の気持ちから、準備には大変な時間と労力を費やしました。また、少しでも多くの方に見ていただきたいとの思いから作成したチラシを各部員が各小学校や市内の各事業所等に配布し宣伝活動にも取り組みました。当日は天候にも恵まれ、数多くの観客に訪れていただき、真冬の夜空に打ち上がる花火に観客の笑顔と大きな歓声があがりました。支部の団結の大切さと多くの方に感動や喜びを感じてもらう事の難しさを学ぶことができる事業となりました。

〔中島 徹〕